

大阪府環境審議会水質規制部会（第5回）議事要旨

日 時：平成23年10月19日(金)10時～12時

場 所：国民會館住友生命ビル小ホール

出席委員：池委員、海老瀬委員（部会長）、島田委員、津野委員、福原委員

議事要旨

（1）議事1「化学的酸素要求量等に係る第7次総量削減計画及び総量規制基準について」

○パブリックコメント結果と見解案を事務局が説明（資料1）

海老瀬部会長 意見5は、大阪府が音頭を取って何かをしているように見えないという感じがある。総量規制は、この5年が終わったころには転換しなくてはいけないところに来ていると思うが、あまり国より差し出たらいけないのか。

池委員 具体的に大阪府としてこう考えていると言えるのは、次の課題となっていて、現状はこういう答えなのだと思う。

海老瀬部会長 意見1の回答で、大阪湾の栄養塩は底質からの溶出と流入と、どちらのシェアが大きいかに合わせて順番に記述を。

事務局 大阪湾全体の内部生産を考慮したシミュレーションの条件の設定で、一番現況再現の合うものは、流入より溶出が少し多かったと思う。

津野委員 意見3に対する答えの、1行目は不要では。

島田委員 記述の順番を替えるとソフトな雰囲気になる。

池委員 総量削減のあり方について、大阪府としてのスタンスは国にお任せにするのか、情報収集に努めて独自の意見も本当にあげていくのか。

事務局 意見を言いますというのは必要。

津野委員 方向性が正しいかどうかは、かなり議論をする必要がある。今の時点では方向性は示さない書き方のほうが良い

海老瀬部会長 この部分は書き直す。私に一任を。

福原委員 意見1の一番下の「知見の集積に努める必要性」は、大阪湾の南部海域に限定されないように修正を。

○部会報告案を事務局が説明（資料2-1、資料2-2）

津野委員 12ページの底質からの溶出は、栄養塩類で溶出と分かるよう修正を。

海老瀬部会長 環境基準点の以外でもいろいろなところが調べている。もっと湾口に近いか港の部分では、環境基準を達成できていない。そのことも触れたほうがいい。

津野委員 水産サイドの測るCODはアルカリ法であり、値に気を付けること。

（2）議事2「その他」

○1,4-ジオキサンの排水基準について事務局が説明（参考資料）

津野委員 廃掃法関係は、並行して検討がされているのか。

事務局 そうです。

(3) 閉会挨拶 環境管理室長 笠松